

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年7月18日
タイトル	ぜんぶ手で植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成30年6月14日（木）福山市立駅家西小学校5年生60名が、駅家西学区内の町内連合会会長や町内会長の協力で田植えを体験しました。

駅家西小学校の学区全ての町内会から町内会長さんをはじめ多くの地域の方が学区全体の取組としてこの農業体験を支えておられます。

校庭で、先生より地域の方々のご協力によって貴重な農業体験ができることや地域の方に感謝の気持ちを持って接することをお話されました。そして、みんなで歩いてほ場に向かいました。ほ場に着くと地域の方が大勢集まっておられ、端の方を植えて準備をして待っておられました。

子どもの代表から挨拶があり、みんなで大きな声で「お願いします。」と挨拶をしました。

連合町内会長から「小さな靍から苗に成長し、田植えができるようになりました。今日は土の感触を楽しんでください。」と挨拶がありました。



子ども達は、すぐに裸足になり田んぼへ入ります。殆どが田植えは初めての子ばかり、初めての土の感触に戸惑う様子もありましたが黙々と田んぼの中央まで進みました。

ほ場の端から端まで横一列に並んで、はえなわの赤い印に植え、後ろに下がりながら一列ずつ植えていきます。はえなわの赤い印が新しいので聞いたところ、昨年より子どもの人数が増えていて全員が横一列で植えられるように間隔を短くするため赤い印を全部入れ替えたそうです。間隔を短くし、列の幅を少し広くして全体のバランスを考えられていました。



田植えをしているとJR福塩線の  
電車が通過しました！

地域の方から「苗は2、3本です。苗を多くしても米の収穫量は増えません。段々苗が増えないように気をつけて植えて。」と言われました。初めての田植えのため赤い印から離れて植えたり、油断すると苗が増えていくので地域の方が声をかけておられました。

三列ほど植えると慣れて植えるスピードも速く、植えた苗もピンとして地域の方が植え直すことがなくなりました。全部植えたらほ場からあがり、農業用水路で足を洗いました。

「苗がみてたけえ、こっちへ渡して。」「もうちょっとこっちじゃ。たわんでえ、さばって！」と地域のみなさんが言う備後弁は小学生には難しいようでした。

備後弁 みてた→無くなった たわん→到達しない さばる→引き寄せる

苗は3本！赤い印へ！黙々と植える子ども達！



校長先生が「田植えが楽しかった人。」と呼びかけると元気よくみんな「はい！」と手をあげました。「田植えの楽しいところだけさせていただき、準備や稲刈りまで大切に稲を育てる大変なところは地域のみなさんがしてください。感謝して稲の成長を見守りましょう。」と話されました。連合町内会長から「この田んぼは学校から近く、通学路に隣接しています。これから4か月登下校の時に稲の成長を見守ってください。」と挨拶されました。最後に子ども達から大きな声で「ありがとうございました。」と挨拶をし、元気に学校へ帰って行きました。

みんなが苗を多く植えることを想定し沢山の苗を準備しておられましたが、ちゃんと3本ずつを守ったので苗が余ったそうです。地域の方が口々に「みんな田植えが上手じゃった。」と喜んでおられました。

ほ場のJRの線路に隣接した場所は危険なため残しており、地域の方が全員で植えられました。「昔の田植えを思い出すようじゃ、嬉しいな。」と今では全くしなくなった手植えを楽しんでおられました。

農業体験をした子ども達に水土里ネット福山から農業用水路の防災についてのチラシと福山市上下水道局から提供していただいた災害備蓄用飲料水「福山の水」を学校から配布してもらい、田植えの後、みんなが足を洗った水路でも転落すると危険だということを伝えてもらいました。農業用水路を身近に感じた時に注意喚起することで効果が得られたと思います。

駅家西小学校5年生は、稲刈りもすべて手作業です。この貴重な体験を通じて、農業や環境など様々な分野に関心を広げてもらいたいです。水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の様子を取材いたします。